

第一節 原始



図150 遺跡の位置
5万分1地形図「新潟」



図151 前期前葉の深鉢
器高20.7センチ
形メートル

菅山前遺跡 江南区蔵岡・笹山
菅山前遺跡は、笹山集落を中心に、その南側の畑地に広がっている。遺跡のある場所は亀田砂丘の一部の小砂丘で、周辺の水田面より、最高で二〜三メートル高くなっている。遺跡周辺の畑などからは、縄文土器や土師器・須恵器などが採集され、昭和二十五（一九五〇）年ごろから遺跡であることが知られていた。

平成七（一九九五）年度、圃場整備事業に伴って範囲確認調査が実施され、縄文時代から平安時代にかけて断続的に営まれた集落跡の一部と推定された。この結果に基づき、現状保存が困難な約二六〇〇平方メートルを新潟市教育委員会が発掘調査した。ここでは縄文時代について紹介する。

縄文時代の前期前葉から晩期後葉にかけての遺物が出土した。前期前葉（約六〇〇〇年前）の図一五一の土器は、東北地方の表館式土器と呼ばれる土器の仲間であり、菅山前遺跡で最も古い。



図153 石錘の出土状態



図152 晩期後葉のベンガラ入りの壺 高さ11.4センチメートル

近隣では西蒲区の新谷遺跡^{あらや}（四〇ページ）や胎内市（旧中条町）の二軒茶屋遺跡で出土している程度で、類例は少ない。ほぼ完全な形で残っているこの時期の土器は珍しく、当時、新潟市域で最も古い考古資料であったことから、平成十（一九九八）年に市文化財に指定された。

また、赤色顔料のベンガラが入った状態で出土した晩期後葉（約二三〇〇年前）の小形の壺形土器は、貯蔵用あるいは移動時の携帯用容器として使われたと考えられ、当時のベンガラ利用の実態を知る上で貴重な資料である。石器では、尖頭器^{せんとうき}や石鏃^{せきせやく}が出土したほか、一七点の石錘^{せきすい}がまとまった形で発見された。意図的に貯蔵されていた可能性がある。

縄文時代では、このほかに中期初頭～前葉、中期後葉、後期初頭～前葉、後期末の土器が出土した。しかし、縄文時代の住居跡が検出されていないことや、縄文土器の出土量が全体で平箱一〇箱と少ないことから、発掘地点は集落の中心部ではなかった可能性が高い。また、恒常的な集落ではなく、漁労や狩猟などのための一時的な居住地であった可能性もある。